

川崎市の一番奥（北部）にある「黒川野外活動センター」からの依頼で、樹木の伐採を行いました。この施設は小学校の分校だった建物と校庭そして小高い丘があり、自然豊かな施設です。近隣のスカウトもよく利用していて、今月の10日には色々な団体が協力して餅つきなどのイベントを行う計画です。参加者は600名を予定しています。施設の運営をしているのは国際自然大学校。所長は自然大学校元校長である野口氏で、私の古くからの友人です。そんなご縁で、シラカシの伐採を行うことになりました。実施したのは12月4日（月）9時から15時まで、増田理事、野口所長、（環境ボランティア）と私の4名、記録係として柏原さんが参加しました。



斜面にある木の確認と、伐採方向の障害物（樹木や構築物）を除去する作業を行います。現場はかなり急な斜面で、下にある樹木から伐採していきます。シラカシ（白欒）という木は樹皮はつるりとしていて、中心は白く、硬く、重いのが特徴です。steel製のチェーンソーは馬力もあり難なく、切断していってくれます。しかし、倒す方向が悪いと、かかり木に（隣の木に寄りかかった状態）なるので、倒したい方向にザイルとウインチで引っ張ります。それでも木の枝ぶりや、斜面の

方向や真っ直ぐではない木のバランスなどでなかなか思い通りの方向に倒すことは難しく、5本倒したうちの2本はかかり木になってしまいました。こうなると、エンジンウインチで、樹木を横に引っ張り、倒します。それでも引くことができなければ、1mぐらいずつ幹を下からチェーンソーで刻みながら枝が外れるように樹高を下げて倒します。木が倒れる時は地鳴りがするほど大きな音と、周りを巻き込んで倒れるのでとても迫力があるといえますが、危険いっば



いの緊張する瞬間でした。作業は大変でしたが怪我もなく無事に終了しました。

